

設計調書：IV 道路詳細設計



# 道路詳細設計調書（その1）

（ / ）

業務名	所在地		受注者名			施工箇所		起点側		
			照査・管理技術者名					終点側		
路線名	事務所名		作成年月日			平成 年 月 日				
延長	新設（暫定・完成） 拡幅の区分		遮音壁の設置の有無			付帯施設の有無				
設計条件	道路規格		第 種 第 級		設計速度		km/h		道路分類	
	計画交通量（大型車混入率）		年度		地域分類		積雪寒冷地の区分			
	自転車通行帯の有無		小段排水溝の有無							
	横断面の構成		土 工 部				橋 梁 部			
幾何構造	最小曲線半径		最小曲線長		最小視距		最小緩和曲線長			
	最急縦断勾配		同左延長		最小縦断曲線長		最小縦断曲線半径		凸 凹	
	横断勾配		片勾配の最大値		最大合成勾配		片勾配の すり付率		登坂車線の 要否	
土	主たる地質		盛土部		切土部		盛土		切土	
			のり勾配		土砂		軟岩		硬岩	
工	のり面工の種類		盛土		切土		盛土		切土	
			土砂		軟岩		硬岩		小段の幅員	
	最大盛土高		最大切土高		軟弱地盤対策、地すべり対策		防雪施設の要否			

※下段は、基準値（特例値）を記入すること。

# 道路詳細設計調書（その2）

(   /   )

舗    装	舗装の種類		交通区分	設計 C B R		主要 数量	盛土量	切土量		のり面積		切土
	舗装構成		路盤の種類	上層	排水 工		舗装面積	車道	横断函梁数	箇所	延長	盛土
	連断層 凍上抑制層の有無			自歩道の舗装		下層	降雨強度	断面				備考欄
					流出係数	路価 隣地	概要					
主要流末概念図			【流末排出量 (m3) / 流末可能通水量 (m3)】									
線    形    概    要	測点											
	縦 断 線 形	勾配										
		距離										
	平面線形											

※下段は、基準値(特例値)を記入すること。



## ボックスカルバート詳細設計（その2）

### 2. 設計条件

#### 2-2. 基礎工

									適用基準等
基礎工	形式	直接, 杭 (                    ), 置換工, 地盤改良工 (                    )							
	杭種・杭径								
土質定数		土質名	層厚 (m)	平均N値	単位重量 $\gamma$ (kN/m <sup>3</sup> )	内部摩擦 角 $\phi$ (°)	粘着力 C (kN/m <sup>2</sup> )	変形係数 E <sub>0</sub> (kN/m <sup>2</sup> )	
	1層								
	2層								
	3層								
	4層								
	5層								
	6層								
支持地盤	許容支持力	Q=                    kN							

注：適用基準等の記載例  
道示 I-1~2 (適用基準短縮名一記載頁) で表示する。

注：杭基礎は「杭基礎設計調書」を、地盤改良工は「地盤改良工設計調書」を参照のこと。

# ボックスカルバート詳細設計調書 (その3)

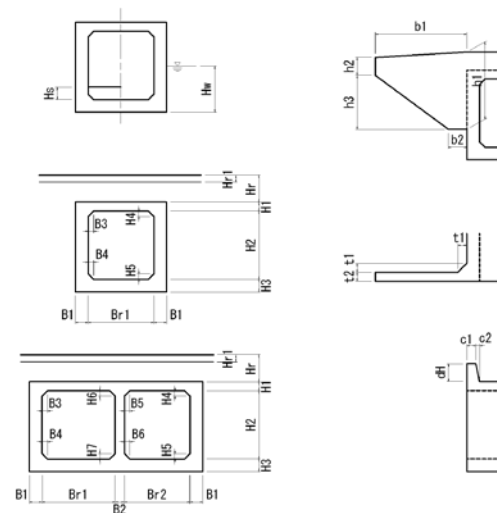
## 3. 形状寸法データ

本体	H <sub>r</sub> (土被り深さ: 舗装厚含む)	m	H <sub>4</sub> (側壁上部ハンチ高さ)	m	H <sub>w</sub> (水位高)	m	B <sub>4</sub> (側壁下部ハンチ幅)	m
	H <sub>r1</sub> (舗装厚)	m	H <sub>5</sub> (側壁下部ハンチ高さ)	m	B <sub>r</sub> (内空幅)	m	B <sub>5</sub> (中壁上部ハンチ幅)	m
	H <sub>1</sub> (頂版厚さ)	m	H <sub>6</sub> (中壁上部ハンチ高さ)	m	B <sub>1</sub> (側壁厚さ)	m	B <sub>6</sub> (中壁下部ハンチ幅)	m
	H <sub>2</sub> (内空高さ)	m	H <sub>7</sub> (中壁下部ハンチ高さ)	m	B <sub>2</sub> (中壁厚さ)	m		
	H <sub>3</sub> (底板厚さ)	m	H <sub>s</sub> (内部盛土高)	m	B <sub>3</sub> (側壁上部ハンチ幅)	m		
ウイング	左口左側		左口右側		右口左側		右口右側	
	b <sub>1</sub> (ウイング張出し幅)	m	b <sub>1</sub>	m	b <sub>1</sub>	m	b <sub>1</sub>	m
	b <sub>2</sub> (ウイング底部切り欠き幅)	m	b <sub>2</sub>	m	b <sub>2</sub>	m	b <sub>2</sub>	m
	h <sub>1</sub> (ウイング高さ)	m	h <sub>1</sub>	m	h <sub>1</sub>	m	h <sub>1</sub>	m
	h <sub>2</sub> (ウイング先端高さ)	m	h <sub>2</sub>	m	h <sub>2</sub>	m	h <sub>2</sub>	m
	h <sub>3</sub> (ウイングテーパー高さ)	m	h <sub>3</sub>	m	h <sub>3</sub>	m	h <sub>3</sub>	m
	t <sub>1</sub> (ウイングハンチ幅)	m	t <sub>1</sub>	m	t <sub>1</sub>	m	t <sub>1</sub>	m
t <sub>2</sub> (ウイング壁厚さ)	m	t <sub>2</sub>	m	t <sub>2</sub>	m	t <sub>2</sub>	m	
土留壁	左口左側		左口右側		右口左側		右口右側	
	c <sub>1</sub> (ウイング天端幅)	m	c <sub>1</sub>	m	c <sub>1</sub>	m	c <sub>1</sub>	m
	c <sub>2</sub> (ウイングハンチ高さ)	m	c <sub>2</sub>	m	c <sub>2</sub>	m	c <sub>2</sub>	m
	d <sub>H</sub> (土留壁高さ)	m	d <sub>H</sub>	m	d <sub>H</sub>	m	d <sub>H</sub>	m

## 4. 安定計算結果

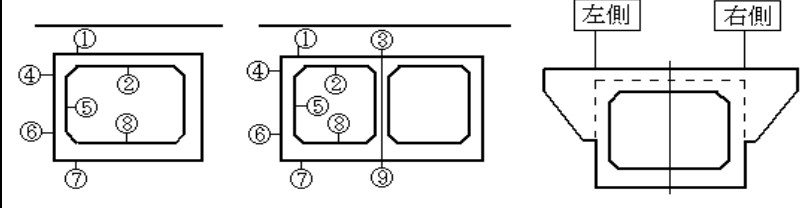
直接基礎, 地盤改良工	
荷重ケース	
最大地盤反力度 Q <sub>max</sub>	kN/m <sup>2</sup>

杭基礎	
荷重ケース	
支持力 R <sub>max</sub>	kN/本
引抜力 R <sub>min</sub>	kN/本
水平変位 δ	mm



## ボックスカルバート詳細設計調書（その4）

5. 部材応力度 5-1. 荷重ケース：常時、衝突時、L1地震時、施工時、その他（ ） <当該ケースに○印>

概 要 図			寸 法 図									設 計 位 置 図			
															
部 材			頂 版			側 壁			底 版			ウ イ ン グ			
設 計 位 置			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	左口左側	左口右側	右口左側	右口右側
断 面 図															
断 面 力	M	kN・m													
	N	kN													
	S	kN													
鉄 筋 量	必 要	cm <sup>2</sup>													
	最 小	cm <sup>2</sup>													
	設 計	cm <sup>2</sup>													
	鉄 筋 径	mm													
	間 隔	mm													
	か ぶり	mm													
応 力 度	設 計 値	$\sigma_c$	N/mm <sup>2</sup>												
		$\sigma_s$	N/mm <sup>2</sup>												
		$\tau_m$	N/mm <sup>2</sup>												
	許 容 値	$\sigma_{ca}$	N/mm <sup>2</sup>												
		$\sigma_{sa}$	N/mm <sup>2</sup>												
		$\tau_a$	N/mm <sup>2</sup>												
設 計 計 算 書 ・ 頁															
設 計 図 ・ 番 号															



# ボックスカルバート詳細設計調書（その5）

モーメント図	鉄筋組合せ図	鋼材のかぶり図

# 擁壁工詳細設計調書（その1）

## 1. 一般事項

業 務 名	
施 設 名	
路 線 名	
所 在 地	
距 離 標	
事 務 所 名	
受 注 者 名	
照査・管理技術者名	
設 計 年 月 日	

## 3. 土砂データ

項 目	単 位	自 然 地 盤	裏 込 め 土	基 礎 地 盤
単 位 重 量 ( $\tau$ )	kN/m <sup>3</sup>			
粘 着 力 (C)	kN/m <sup>2</sup>			
せん断抵抗角 ( $\phi$ )	度			
変形係数 (E0)	kN/m <sup>2</sup>			
変形係数算出方法	—			
一軸圧縮強度 (qu)	kN/m <sup>2</sup>			

## 2. 構造条件

擁 壁 形 式	逆T式擁壁			適 用 基 準 等
設 置 区 分	背面盛土・背面切土・橋梁等取付・その他 ( )			
製 品 区 分	工場製品・場所打ち			
標 準 設 計	無・有	標準設計図No.		
基 礎 工	形 式	直接 , 杭 ( ), 地盤改良 ( )		
	杭種・杭径			
盛 土 高 さ	H <sub>o</sub> =	m	法 面 勾 配	N =
	上載分布荷重P=		kN/m <sup>2</sup>	
浮力考慮位置	H <sub>w</sub> =	m	突 起	無
コンクリート強度	σ <sub>ck</sub> =		N/mm <sup>2</sup>	
鉄 筋 材 質	JIS G3112 (種類)			
設計水平震度	地域別補正係数	C <sub>z</sub> =		
地 盤 種 別		土 質	層 厚	平均N値
	第 1 層			
	第 2 層			
	第 3 層			
	第 4 層			
種別判定	Ⅰ種 , Ⅱ種 , Ⅲ種			
液 状 化 判 定	有・無			

注：適用基準等欄の記載例

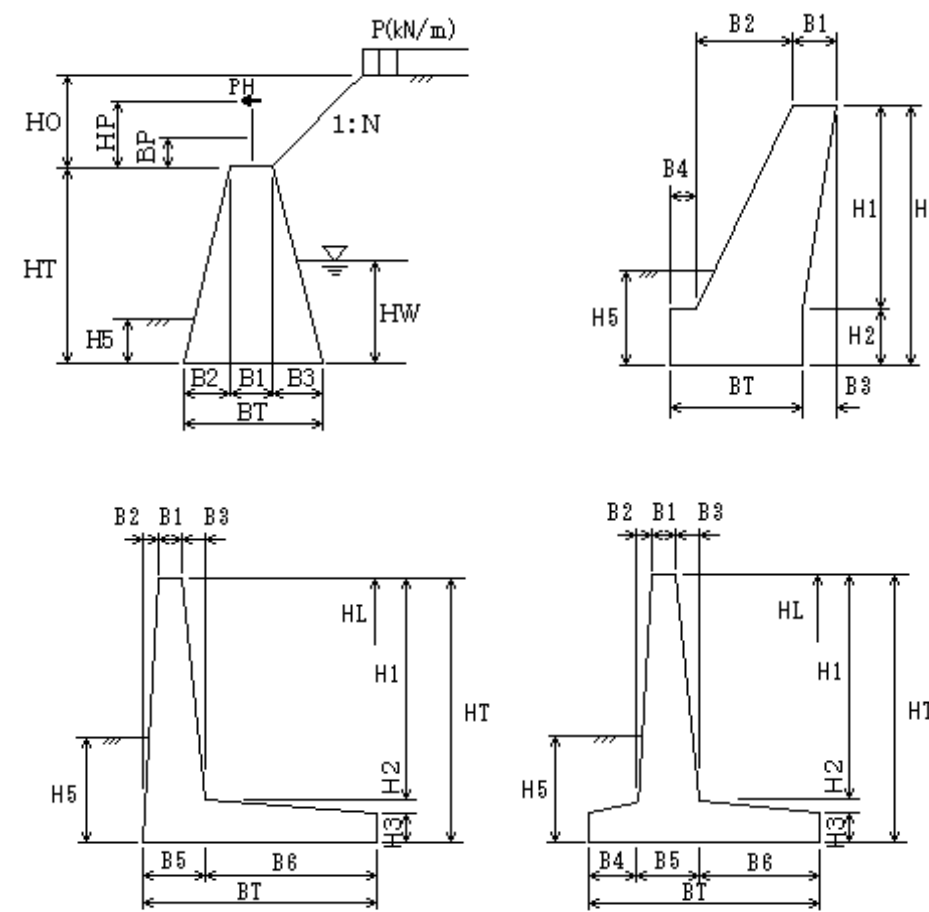
道示 I-1~2 (適用基準短縮名一記載項) で表示する。

注：\*は杭基礎設計調書を参照のこと。

## 擁壁工詳細設計調書（その2）

### 4. 形状寸法データ

擁壁延長	TL =	m	前面土砂高	H0 =	m		
防護柵作用荷重	PH =	kN/m	作用位置	HP =	m、	BP =	m
断面 (大側)	HT (擁壁高)	H1 (たて壁高)	H2 (底版厚)				
	m	m	m	m			
断面 (小側)	HT (擁壁高)	H1 (たて壁高)	H2 (テ-パ°-3)	H3 (端部底版厚)			
	m	m	m	m			
断面 (大側)	BT (底面幅)	B1 (天端幅)	B2 (テ-パ°-1)	B3 (テ-パ°-2)	B4 (つま先版幅)	B5 (たて壁底部幅)	B6 (かかと版幅)
	m	m	m	m	m	m	m
断面 (小側)	BT (底面幅)	B1 (天端幅)	B2 (テ-パ°-1)	B3 (テ-パ°-2)	B4 (つま先版幅)	B5 (たて壁底部幅)	B6 (かかと版幅)
	m	m	m	m	m	m	m



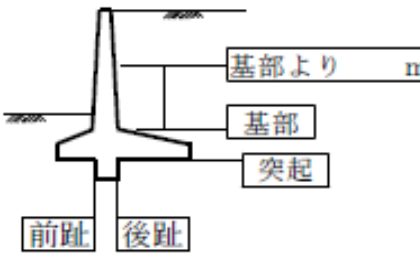
### 5. 安定計算結果

直接基礎安定計算結果総括表							
ケ	一	ス	常			時	
浮	力		有	無	許容値	有	無
偏	心量(c)				B/6=		B/3=
滑	動安全率						
最	大地盤反力度 (kN/m <sup>2</sup> )						
鉛	直支持力(Q) (kN)						

杭基礎安定計算結果総括表							
ケ	一	ス	常			時	
浮	力		有	無	許容値	有	無
杭頭	押込 (kN)						
反力	引抜 (kN)						
水	平変位 (mm)						

# 擁壁工詳細設計調書（その3）

## 6. 部材応力度

概 要 図			寸 法 図				設 計 位 置 図								
															
部 材			壁				フ ー チ ン グ				突 起				
設 計 位 置			基 部		基部より m		基部より m		前 趾		後 趾		突 起		
荷 重 状 態			常 時	地震時	常 時	地震時	常 時	地震時	常 時	地震時	常 時	地震時	常 時	地震時	
断 面 図															
断 面 力	M	k Nm/m													
	N	k N/m													
	S	k N/m													
鉄 筋 量	必 要	cm <sup>2</sup>													
	最 小	cm <sup>2</sup>													
	設 計	cm <sup>2</sup>													
	鉄 筋 径	mm													
	間 隔	mm													
か ぶ り	mm														
応 力 度	設 計 値	$\sigma_c$	N/mm <sup>2</sup>												
		$\sigma_s$	N/mm <sup>2</sup>												
		$\tau_o$	N/mm <sup>2</sup>												
	許 容 値	$\sigma_{ca}$	N/mm <sup>2</sup>												
		$\sigma_{sa}$	N/mm <sup>2</sup>												
		$\tau_{oa}$	N/mm <sup>2</sup>												
設 計 計 算 書 ・ 項															
設 計 図 ・ 番 号															

# 擁壁工詳細設計調書（その4）

モーメント図	鉄筋組合せ図	鋼材のかぶり図

# 基礎工詳細設計調書 (その1)

( / )

## 1. 一般事項

業務名		事務所名	
施設名		受注者名	
路線・河川名		照査・ 管理技術者名	
所在地		作成年月日	
距離標	Km	左右岸の別	

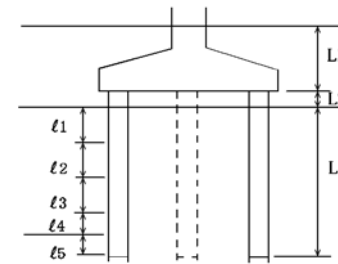
## 2. 基本事項

杭群への 作用力	M	N	H	施工偏心 ΔM	適用基準等	
	kN・m	kN	kN	kN・m		
基礎 工 形 態	基礎形式	径(または短辺×長辺)		基礎長		
	杭基礎	mm		m		
	頭部処理	施工方法		先端処理		
	方法B	打込み(打撃)				
	底版の根入深さ	突出長		有効根入長		
	L <sub>1</sub> =	m	L <sub>2</sub> =	m	L <sub>3</sub> =	m
地層 区 分	l <sub>1</sub> =	m	l <sub>2</sub> =	m	l <sub>3</sub> =	m
	N <sub>1</sub> =		N <sub>2</sub> =		N <sub>3</sub> =	
	l <sub>4</sub> =	m	支持層地盤		l <sub>5</sub> =	m
	N <sub>4</sub> =				N <sub>5</sub> =	
基本 デ ー タ	鉄筋材質	コンクリート強度		杭材質	腐食代	
	SKK490	σ <sub>ck</sub> = N/mm <sup>2</sup>		鋼管	mm	
	杭頭平均N値	変形係数	ハネ 定数	(常)kH=	kN/m <sup>3</sup>	
		E <sub>o</sub> = kN/m <sup>2</sup>		K <sub>v</sub> =	kN/m	
			(地)kH=	kN/m <sup>3</sup>		
			K <sub>v</sub> =	kN/m		
許容支持力(押込)		許容支持力(引抜)		許容支持力(水平)	変位	
安 定	(常)	kN/本	kN/本		mm	
	(地)	kN/本	kN/本		mm	

## 3. 基礎工配置データ

軸 方 向 杭 配 置 デ ー タ	No	距離(X)	奥行方向の本数
	1	m	本
	2	m	本
	3	m	本
	4	m	本
	5	m	本
	6	m	本
	7	m	本
	8	m	本
	9	m	本
	10	m	本

軸 直 角 方 向 杭 配 置 デ ー タ	No	距離(Y)	奥行方向の本数
	1	m	本
	2	m	本
	3	m	本
	4	m	本
	5	m	本
	6	m	本
	7	m	本
	8	m	本
	9	m	本
	10	m	本



注：適用基準等、欄の記載例  
道示 I - 1 ~ 2 (適用基準短縮名一記載頁) で表示する。

# 基礎工詳細設計調書 (その1)

( / )

## 1. 一般事項

業務名		事務所名	
施設名		受注者名	
路線・河川名		照査・ 管理技術者名	
所在地		作成年月日	
距離標	Km	左右岸の別	

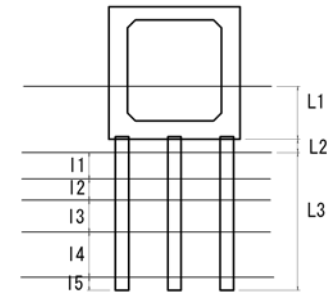
## 2. 基本事項

杭群への 作用力	M	N	H	施工偏心 ΔM	適用基準等	
	kN・m	kN	kN	kN・m		
基礎 工 形 態	基礎形式	径(または短辺×長辺)		基礎長		
	杭基礎	mm		m		
	頭部処理	施工方法		先端処理		
	方法B	打込み(打撃)				
	底版の根入深さ	突出長		有効根入長		
	L <sub>1</sub> =	m	L <sub>2</sub> =	m	L <sub>3</sub> =	m
地層 区 分	l <sub>1</sub> =	m	l <sub>2</sub> =	m	l <sub>3</sub> =	m
	N <sub>1</sub> =		N <sub>2</sub> =		N <sub>3</sub> =	
	l <sub>4</sub> =	m	支持層地盤		l <sub>5</sub> =	m
	N <sub>4</sub> =				N <sub>5</sub> =	
基本 デ ー タ	鉄筋材質	コンクリート強度		杭材質	腐食代	
	SKK490	σ <sub>ck</sub> = N/mm <sup>2</sup>		鋼管	mm	
	杭頭平均N値	変形係数	ハネ 定数	(常)kH= kN/m <sup>3</sup> Kv= kN/m		
		E <sub>o</sub> = kN/m <sup>2</sup>		(地)kH= kN/m <sup>3</sup> Kv= kN/m		
(常)	許容支持力(押込)	許容支持力(引抜)	許容支持力(水平)	変位		
安定	(常)	kN/本	kN/本		mm	
	(地)	kN/本	kN/本		mm	

## 3. 基礎工配置データ

軸 方 向 杭 配 置 デ ー タ	No	距離(X)	奥行方向の本数
	1	m	本
	2	m	本
	3	m	本
	4	m	本
	5	m	本
	6	m	本
	7	m	本
	8	m	本
	9	m	本
	10	m	本

軸 直 角 方 向 杭 配 置 デ ー タ	No	距離(Y)	奥行方向の本数
	1	m	本
	2	m	本
	3	m	本
	4	m	本
	5	m	本
	6	m	本
	7	m	本
	8	m	本
	9	m	本
	10	m	本

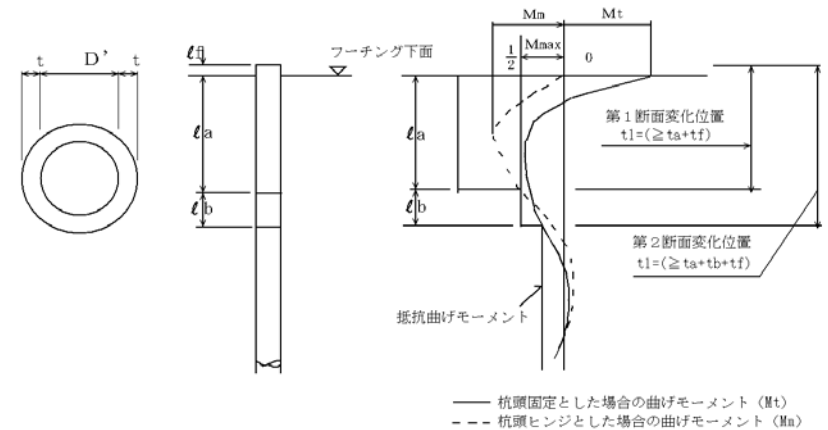


注：適用基準等、欄の記載例  
道示 I - 1 ~ 2 (適用基準短縮名一記載頁) で表示する。

軸方向

計算ケース名		単位	常時		地震時		備考		
			浮力無視	浮力考慮	浮力無視	浮力考慮			
安定計算及び杭の計算結果	杭頭外力	偏心量 $e$	m					設計計算書P 設計図番号 /	
		全鉛直力 $\Sigma V$	kN						
		全水平力 $\Sigma H$	kN						
		偏心モーメント $\Sigma M$	kN・m						
	反力変位発生力	杭頭変位量	水平変位 $\delta x$	mm					設計計算書P 設計図番号 /
			鉛直変位 $\delta z$	mm					
		水平力	1本あたり		kN				
			杭反力	前列 $PN_{max}$	kN/本				
			後列 $PN_{min}$	kN/本					
	最大曲げモーメント	杭頭部 $Mt$	kN・m					設計計算書P 設計図番号 /	
		地中部 $Mm$	kN・m						
	杭体応力	鉄筋又は板厚	$N_{max}$	$\sigma_c$	$N/mm^2$				設計計算書P 設計図番号 /
$\sigma_s$				$N/mm^2$					
$N_{min}$			$\sigma_c$	$N/mm^2$					
			$\sigma_s$	$N/mm^2$					
許容支持力	鉛直支持力		kN/本				設計計算書P 設計図番号 /		
	引抜き力		kN/本						
許容応力度	圧縮応力度		$N/mm^2$				設計計算書P 設計図番号 /		
	引張応力度		$N/mm^2$						
杭頭部計算結果	垂直支圧応力度	発生値	$N/mm^2$				設計計算書P 設計図番号 /		
		許容値	$N/mm^2$						
	押抜きせん断応力度	発生値	$N/mm^2$				設計計算書P 設計図番号 /		
		許容値	$N/mm^2$						
	引抜きせん断応力度	発生値	$N/mm^2$				設計計算書P 設計図番号 /		
許容値		$N/mm^2$							
水平支圧応力度	発生値	$N/mm^2$				設計計算書P 設計図番号 /			
	許容値	$N/mm^2$							
水平方向押抜きせん断応力度	発生値	$N/mm^2$				設計計算書P 設計図番号 /			
	許容値	$N/mm^2$							

計算ケース名		単位	常時		地震時		備考
			浮力無視	浮力考慮	浮力無視	浮力考慮	
仮想RC断面	使用鉄筋量		$cm^2$				設計計算書P 設計図番号 /
	発生値	圧縮応力度	$N/mm^2$				
		引張応力度	$N/mm^2$				
		せん断応力度	$N/mm^2$				
	許容値	圧縮応力度	$N/mm^2$				
		引張応力度	$N/mm^2$				
せん断応力度		$N/mm^2$					
ケーソン基礎	水平方向	使用鉄筋量	$cm^2$				設計計算書P 設計図番号 /
		圧縮応力度	$N/mm^2$				
		引張応力度	$N/mm^2$				
		せん断応力度	$N/mm^2$				
	縦方向	使用鉄筋量	$cm^2$				設計計算書P 設計図番号 /
		圧縮応力度	$N/mm^2$				
引張応力度		$N/mm^2$					
せん断応力度		$N/mm^2$					
許容値	圧縮応力度	$N/mm^2$				設計計算書P 設計図番号 /	
	引張応力度	$N/mm^2$					
	せん断応力度	$N/mm^2$					





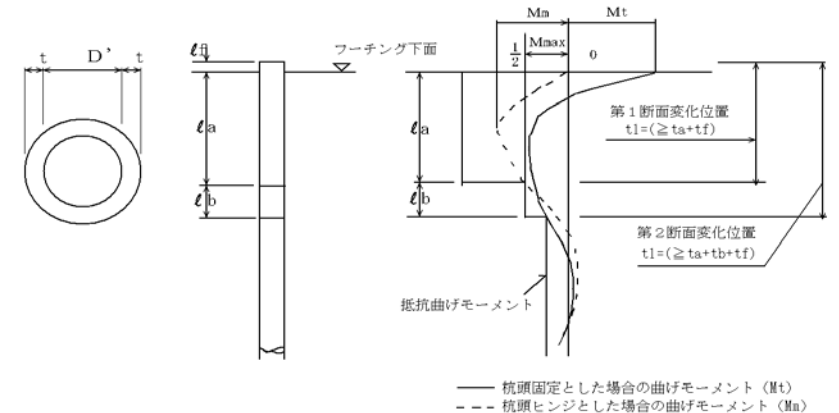
# 基礎工詳細設計調書 (その3)

( / )

軸直角方向

計算ケース名		単位	常時		地震時		備考			
			浮力無視	浮力考慮	浮力無視	浮力考慮				
安定計算及び杭の計算結果	杭頭外力	偏心量 $e$	m					設計計算書 P		
		全鉛直力 $\Sigma V$	kN					設計図番号 /		
		全水平力 $\Sigma H$	kN							
		偏心モーメント $\Sigma M$	kN・m							
	反力変位発生力	杭頭変位量	水平変位 $\delta x$	mm					設計計算書 P	
			鉛直変位 $\delta z$	mm						
		水平力	1本あたり		kN				設計図番号 /	
			杭反力	前列 PNmax 後列 PNmin	kN/本 kN/本					
	最大曲げモーメント	杭頭部	Mt	kN・m				設計計算書P 設計図番号 /		
			地中部	Mm	kN・m					
	杭体応力	鉄筋又は板厚	Nmax	$\sigma c$	N/mm <sup>2</sup>				設計計算書 P	
				$\sigma s$	N/mm <sup>2</sup>					
			Nmin	$\sigma c$	N/mm <sup>2</sup>					設計図番号 /
				$\sigma s$	N/mm <sup>2</sup>					
	許容支持力	鉛直支持力		kN/本				設計計算書P 設計図番号 /		
引抜き力		kN/本								
許容応力度	圧縮応力度		N/mm <sup>2</sup>				設計計算書P 設計図番号 /			
	引張応力度		N/mm <sup>2</sup>							
杭頭部計算結果	垂直支圧応力度	発生値	N/mm <sup>2</sup>				設計計算書P 設計図番号 /			
		許容値	N/mm <sup>2</sup>							
	押抜きせん断応力度	発生値	N/mm <sup>2</sup>				設計計算書P 設計図番号 /			
		許容値	N/mm <sup>2</sup>							
	引抜きせん断応力度	発生値	N/mm <sup>2</sup>				設計計算書P 設計図番号 /			
許容値		N/mm <sup>2</sup>								
水平支圧応力度	発生値	N/mm <sup>2</sup>				設計計算書P 設計図番号 /				
	許容値	N/mm <sup>2</sup>								
水平方向押抜きせん断応力度	発生値	N/mm <sup>2</sup>				設計計算書P 設計図番号 /				
	許容値	N/mm <sup>2</sup>								

計算ケース名		単位	常時		地震時		備考	
			浮力無視	浮力考慮	浮力無視	浮力考慮		
仮想RC断面	使用鉄筋量		cm <sup>2</sup>				設計計算書 P	
	発生値	圧縮応力度	N/mm <sup>2</sup>					設計図番号 /
		引張応力度	N/mm <sup>2</sup>					
		せん断応力度	N/mm <sup>2</sup>					
	許容値	圧縮応力度	N/mm <sup>2</sup>				設計計算書 P	
		引張応力度	N/mm <sup>2</sup>					設計図番号 /
せん断応力度		N/mm <sup>2</sup>						
ケーソン基礎	水平方向	使用鉄筋量	cm <sup>2</sup>				設計計算書 P	
		圧縮応力度	N/mm <sup>2</sup>					設計図番号 /
		引張応力度	N/mm <sup>2</sup>					
	縦方向	使用鉄筋量	cm <sup>2</sup>				設計計算書 P	
		圧縮応力度	N/mm <sup>2</sup>					設計図番号 /
		引張応力度	N/mm <sup>2</sup>					
許容値	せん断応力度	N/mm <sup>2</sup>				設計計算書 P		
	圧縮応力度	N/mm <sup>2</sup>					設計図番号 /	
	引張応力度	N/mm <sup>2</sup>						



# 基礎工（地盤改良工）詳細設計調書（その1）

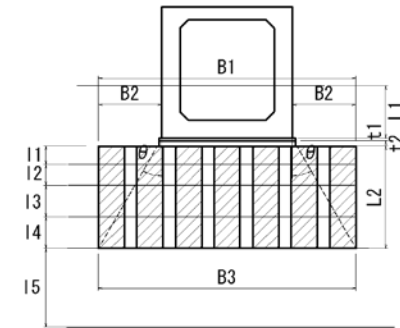
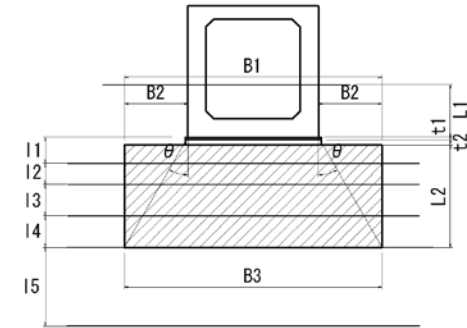
( / )

## 1. 一般事項

業務名		事務所名	
施設名		受注者名	
路線・河川名		照査・ 管理技術者名	
所在地		作成年月日	
距離標	Km	左右岸の別	

## 2. 基本事項

基礎 工 形 態	改良工法		対策工法		適用基準等	
	上面改良幅 B1	m	改良張出幅 B2	m		
	下面改良幅 B3	m	分散角 $\theta$	°		
	根入れ深さ L1	m	改良深さ L2	m		
	均しコンクリート厚 t1	mm	基礎材厚 t2	mm		
地 層 区 分	l <sub>1</sub> =	m	l <sub>2</sub> =	m	l <sub>3</sub> =	m
	N <sub>1</sub> =		N <sub>2</sub> =		N <sub>3</sub> =	
	l <sub>4</sub> =	m	支持層地盤		l <sub>5</sub> =	m
	N <sub>4</sub> =				N <sub>5</sub> =	
基本 デ ー タ	最大地盤反力度	Q <sub>max</sub> =	kN/m <sup>2</sup>	(均しコンクリート、基礎材考慮)		
	設計基準強度	qu <sub>ck</sub> =	kN/m <sup>2</sup>	改良杭径	$\phi$ =	m
	改良率	ap =	%	置換土単位重量	$\gamma$ =	kN/m <sup>3</sup>
	配合参考値					
	室内目標強度	qu <sub>l</sub> =	kN/m <sup>2</sup>	固化材添加量		kg/m <sup>3</sup>
	改良体底面支持力	許容支持力				
安 定	kN/m <sup>2</sup>	kN/m <sup>2</sup>				



注：適用基準等、欄の記載例  
道示 I - 1 ~ 2 (適用基準短縮名一記載頁) で表示する。

# 平面交差点詳細設計調書 (その1)

## 1. 計画概要

業務名						
所在地						
事務所名	工事事務所					
受注者名	(照査・管理技術者名)					
作成年月日	平成 年 月 日					
事業区分	点(交差点)・線(道路)・面(地域)の改良・新設(○印)					
全体計画	km		今回計画(内数)		km	
事業計画	事業着手	年	月	～	年 月	
	用地買収期間(予定)	年	月			
	工事着手(予定)	年	月			
	工事完了(予定)	年	月			
	供用開始(予定)	年	月			
道路名	主道路					
	主道路					
	従道路					
	従道路					
道路の構造・規格	主従の別	道路区分	設計速度 (km/h)	最急縦断勾配 (%)	最小曲線半径 (m)	標準横断面構成 (m)
	主	種 級	.....	.....	.....	全幅 m
	主	種 級	.....	.....	.....	全幅 m
	従	種 級	.....	.....	.....	全幅 m
	従	種 級	.....	.....	.....	全幅 m
標準横断面図						
主						
従						

※下段は適用基準等、発行年月日と適合ページを記入する。

## 2. 交差点計画

交差点名	通称・番号・記号等						
交差点部設計計画	交差点制御方法 ( 信号制御 ・ 一時停止 )						
	主従の別	設計車両 (○印)	交差点付近の設計速度	交差点付近横断勾配・区間距離	曲線半径 (m)	交差角度	
	主	小型車	.....	.....	.....	.....	
	従	普通車 セミトレ	.....	.....	.....	..... 度	
右左折車通行方法			導流路曲線半径 (m)		導流路幅員 (m)		
主	方面から	右折	.....	外側	内側	.....	
		左折	.....	外側	内側	.....	
	方面から	右折	.....	外側	内側	.....	
		左折	.....	外側	内側	.....	
従	方面から	右折	.....	外側	内側	.....	
		左折	.....	外側	内側	.....	
	方面から	右折	.....	外側	内側	.....	
		左折	.....	外側	内側	.....	
交通量	主			従			
	・現況 ・予測 ・車種別 ・方向別 ・歩行者 ・特異交通流等						
付設車線設置計画	主			従			
	計画有・無 (○印) 右折・左折車線 (○印) 付加車線 ( 折 ) の必要性			計画有・無 (○印) 右折・左折車線 (○印) 付加車線 ( 折 ) の必要性			
	( 有 ・ 無 )			( 有 ・ 無 )			
	滞留長 テーパー長 (減速車線長)			m		滞留長 テーパー長 (減速車線長)	
			m				
付加車線幅員			m		付加車線幅員		
本線シフト区間長			m		本線シフト区間長		

■ 交差点計画

		主道路						・交差点図(制御方式: 信号 ・ 一時停止 )	
交差点交差角(°)									
方向		①			②				
路線名									
道路規格									
設計速度(km/h)									
規制速度(Km/h)									
平面曲線半径(m)									
縦断勾配(%)									
緩勾配(%)									
縦断緩勾配区間長(m)									
幅員構成 (断面図)		単路部			単路部				
		交差点部			交差点部				
設計車両									
導流路	通行方法	導流路半径		導流路幅員	通行方法	導流路半径			導流路幅員
	右折 →	外側:	内側:		→	外側:	内側:		
	左折 →	外側:	内側:		→	外側:	内側:		
隅切り半径									
付加車線	計算式	構造令による 最小値	採用値	計算式	構造令による 最小値	採用値			
本線シフト長(m)									
テーパ長(m)									
滞留長(m)									
		従道路							
交差点交差角(°)									
方向		③			④				
路線名									
道路規格									
設計速度(km/h)									
規制速度(Km/h)									
平面曲線半径(m)									
縦断勾配(%)									
緩勾配(%)									
縦断緩勾配区間長(m)									
幅員構成 (断面図)		単路部			単路部				
		交差点部			交差点部				
設計車両									
導流路	通行方法	導流路半径		導流路幅員	通行方法	導流路半径		導流路幅員	
	右折 →	外側:	内側:		→	外側:	内側:		
	左折 →	外側:	内側:		→	外側:	内側:		
隅切り半径									
付加車線	計算式	構造令による 最小値	採用値	計算式	構造令による 最小値	採用値			
本線シフト長(m)									
テーパ長(m)									
滞留長(m)									

※流入番号を記すこと。



# 平面交差点詳細設計調書 (その2)

## 3. 道路管理者所管の交通安全施設等の計画

視線誘導標 道路照明 防護柵 歩道	(有・無) (交差点部 ・ 計画区間全線) (有・無) (交差点部 ・ 計画区間全線) (有・無) (交差点部 ・ 計画区間全線) (有・無) (歩車道境界 ・ 路外境界線) (有・無) (両側 ・ 片側) (歩車道境界ブロックの高さ cm) (マウンドアップ ・ フラット)
	・ 計画区間内のバス停留所の有無 (有・無) ・ 交差点付近のバス停留所の有無 (有・無) ・ バス停留所の有無 (有・無) ・ 必要性の有無 (有・無) ・ バス停留所の位置の適否 (交差点 流出側 ・ 流入側) (見通し 良 ・ 不良)
通学路	通学路の指定 (有・無) 将来の可能性 (有・無)
その他	

※道路照明、バス停、通学路の位置等は、図面上に正確に図示すること。

## 4. 交通規制計画

線の規制	主	現況	事業後
	従	現況	事業後
点の規制	主	現況	事業後
	従	現況	事業後
信号機	交差点名 概設信号機 (有 ・ 無) 信号運用状況 三色 (時間 ～) 点灯 (時間 ～) 滅灯 (時間 ～) 移設、増灯の必要性 (有 ・ 無) 新設の必要性 (有 ・ 無)		
横断歩道・ 自転車横断帯			
その他			

## 5. 事業計画上の問題点及び今後の調整事項